

令和7年 **5** 月の**安らぎ**通信



南海トラフ地震 新たな被害想定

*震度7を観測する市町村は149となり、浸水域（深さ30 cm以上）の面積は3割拡大。

*避難者は前回想定から3割増え1230万人。大阪で198万人発生。

*国や自治体などの「公助」だけでは限界があり、民間ボランティアなどと連携した「共助」の体制、一人ひとりが備蓄や早期避難、住宅の耐震化を心がける「自助」の3つを合わせた対策が求められます。

*津波による死者数、揺れによる全壊棟数はいずれも7割減少。

*感震ブレーカー設置率が100%に高まれば、火災による焼失棟数も半減が可能に。

（2025年4月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

